

しが国際協力親善大使レポート

おかがわ けんた
岡川 健太さん

隊次：2017年度1次隊

職種：数学教育

派遣国：タンザニア

自己紹介

滋賀県草津市出身。立命館大学で数学について、広島大学大学院で数学教育について研究した後に高校の非常勤講師を経て2017年7月からアフリカのタンザニアに数学教師として派遣中。大学院在学中に教育開発国際協力研究センター（CICE）で1年間インターンを経験。

活動している国、地域の気候や文化の紹介

私はアフリカのタンザニアという国の南東部に位置するムトワラ州という地域に派遣されています。タンザニアは日本でも有名なキリマンジャロ山や野生の動物を見ることが出来るサファリで有名で、毎年多くの日本人観光客が訪れます。私の任地はこのような観光地からは離れた海の田舎町で、日本でいう初夏と真夏しかないような暑い地域です。町の人々はタンザニアの中でも人懐っこい人が多く、世間話の止まらない素敵な街です。

活動や生活について

タンザニアでは現在理系の教員が不足しています。そのような背景から私は、中等学校（日本の中学校と高校に当たる学校）で数学の教師として活動しています。生徒の数が多すぎて1つの教室で100人以上が一緒に授業をすることもあります。椅子や机もちろん足りません。後ろまで行くための机間もなくなってしまうくらい密集しています。それでも近くに仲間がいるので、早くわかった生徒が分からない生徒に私の代わりに教えるといった助け合いが毎授業見られます。日本からしたらすごく大変な環境に見えるかもしれませんが、そんなこと気にもせずみんな一生懸命に、そして楽しそうに勉強しています。授業は英語で実施しますが、英語のわからない生徒も多数いるので現地語も使用します。しかし、私自身も数学を英語で伝えること、はたまた現地語のスワヒリ語で伝えることにとても苦労しています。そんなときも分かった生徒が現地語に翻訳をしてくれたり、毎日生徒に助けてもらっています。まさに私と生徒が一緒になって授業をしています。初めは自分で全部しないといけないと思ってすごく大変でしたが、生徒たちに手伝ってもらおうようになってすごく授業が楽しくなってきました。

タンザニアだけでなくアフリカ全体になるかもしれませんが、私たちアジア人は差別を

受けることもあります。心無いことを言われて落ち込んだり、お金を持っていると思われるお店で嘘の料金を言われたりと、日本では経験したことのない悲しさや苛立ちを感じます。仲良くなるとそんなことはないのですが、初めて会った人には差別のようなことをされることもあります。しかし、そんなときも周りのタンザニア人が「こいつは日本からわざわざ数学を教えに来てるんだぞ！それはないだろう！」といったように、助けてくれることもたくさんあります。市場に行くと仲のいいタンザニア人が「あいつら直ぐに金を取ろうとするから、一緒に回ってやるよ！」と言ってくれたりと、不快な思いをしないように気を使ってくれたりもします。授業の話ともかぶりますが、日本にいたときよりも周りの人に助けられていることをひしひしと感じます。

独りで何かを達成する力はもちろん大切です。しかし、タンザニアに来て周りの人と助け合いながら何かを達成することも大切だと改めて感じました。授業にしても、生徒が助けてくれるのも、まわりまわって生徒の自主性に関わってくると思います。また、2019年の7月には帰ってしまいます。すべてを一人で行なうのではなく、タンザニアの人と一緒に行動することで、私が帰った後もずっと続いていくようなものを残せるのではないかと考えています。



教員セミナー



授業風景



日本との skype 交流